



山梨学院大学

# 経営ナビゲーション

—ビジネス革新への航海図

No. 26-4

平成27年3月19日発行

山梨中央銀行  
法人推進室

甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が有する知的資産とビジネスの現場とを結びつけ、企業経営のイノベーションや事業機会の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本レポートでは山梨学院大学の先生方と、その研究内容を紹介していきます。中小企業のみなさまが肌で感じとったビジネスの現場の空気と、気鋭の研究者たちが取り組むアカデミズムの最前線が出遭うこのレポートが、新たなビジネスの「創発(emergence)」の場となることを期待いたします。

<第16回>



## 観光分野が開く山梨の未来

数住 伸一 先生

(現代ビジネス学部 教授)

<<要点>>

- 観光分野は、次世代の基幹ビジネスになる可能性を秘めた成長産業であり、地方や地域の活性化、雇用の創出につながる期待の産業です。「山梨のファンづくり」のためにも観光分野は益々重要になるでしょう。
- 私は、教育機関の立場で研究するだけでなく、産官学連携で山梨県を元気にする実践的な教育に取り組んでおり、ゼミでは、「富士五湖を訪れる外国人観光客」を対象としたGPS機能が付いた日本語・英語・中国語の「観光案内アプリ」を製作しました。また、観光関連企業での「長期インターンシップ」(5週間)にも取り組んでいます。
- 山梨県は、「リニア中央新幹線」の開通をきっかけに、東京～山梨の体験乗車を観光商品として活かすことが可能だと思います。新たな通勤手段としての役割にも期待できるでしょう。
- 現在、地域では既に過疎化、生産者の減少問題が表面化しており、観光事業者の方は自分たちがどうするべきか考え、行動に移す必要があります。重要なのは、地域に「愛情」を持ったリーダーの存在です。

■どのような分野を研究されていますか？

サービス産業・ホスピタリティ産業など観光分野が専門です。観光分野は、次世代の基幹ビジネスになる可能性を秘めた成長産業であり、地方や地域の活性化や雇用の創出につながる期待の産業です。観光分野について教育機関の立場から研究するだけでなく、産官学連携で山梨県を元気にする実践的な教育に取り組んでいます。

■実践的な教育とは具体的にどのような内容ですか？

ゼミでは、学生たちが主体となって観光をテーマに地域活性化につながる取り組みを実施しています。今年度は「富士五湖を訪れる外国人観光客」を対象とした、GPS機能が付いた日本語・英語・中国語の「観光案内アプリ」を製作しました。学生たちは、この地域に何が足りないのか、どんなことをすれば観光客に喜んでもらえるのかということを考えるため、多くの観光イベントにボランティアとして参加したり、現地調査を行って、アプリ製作に取り組みました。

また、観光関連企業での「長期インターンシップ」にも取り組んでいます。夏休み期間中に5週間の実習を、山梨県を中心に都内や箱根地区も含めたホテル・旅館、観光農園などで実施しています。この長期インターンシップは、学生自身が主体的にキャリア選択を意識し、自分がイメージする仕事と現実の業務内容のギャップを体験・認識することを狙いにしています。これにより、就職活動での学生と企業のミスマッチを防ぐことができると考えています。

■山梨県の観光分野についてどのような展望をお持ちですか？

山梨県は豊かな自然に恵まれています。点在する観光名所の魅力をもっと面的につなげる必要があります。面的な活性化により、点在するスポットの価値が増すといえるでしょう。

山梨は東京都に隣接する県でありながら、富士山を代表する豊かな自然と、フルーツ、ワイン、ジュエリーといった地域特産品も数多く存在します。

ゆとりある活動的なシニア世代マーケットに支えられてきた観光事業者の中には、今のままだも良いと思っている人は多いと思いますが、地域では既に過疎化、生産者の減少問題が表面化しており、観光ビジネスにも大きな影響が及びます。そこをしっかりと認識して、観光事業者の方は自分たちがどうすべきか考え、行動に移す必要があります。訪日外国人旅行客の需要を取り込むことも大切ですが、重要なのは、地域に「愛情」を持ったリーダーの存在です。「何とかしなきゃ」という思いをエンジンに、協力者・行政等の視点を加えて連携できる形が理想です。

今の時代を担っている人とこれからを担う人が周囲を巻き込みながら、後世につながる取り組みを始めるときに来ているのだと思います。

■近年注目されている「リニア中央新幹線」の開通についてどのようにお考えですか？

山梨県の活性化を考える上で、リニア中央新幹線は良いきっかけだと思います。「リニアに乗ってみたい」という需要は一定期間継続すると思われるので、東京～山梨の体験乗車を観光商品として活かすことが可能だと思います。現在は、多くの観光客が東京から富士山周辺へ、高速バスや鉄道で直接訪れていますが、リニアの開通で甲府まで来る可能性が広がります。その観光客に対して、富士山へ行く前に立ち寄りたくなる観光ルートの提案が大切でしょう。

また、新たな通勤手段としての役割にも期待できます。都心で働きながら自然豊かな街に住む生活を望む人達に、山梨を選択してもらえる可能性が高くなるので、「山梨のファンづくり」としての観光も益々重要になると思います。

■観光事業者の方との連携で実施できること等ございますか？

山梨学院大学には、経営学研究センターという、産官学連携による地域経済の活性化に取り組む組織があります。経営戦略、マーケティング、会計・ファイナンス、人的資源管理、生産管理等、経営学一般の体系的な理解を深めたり、実践的な課題に取り組む、研修会やワークショップなどを開催しています。具体的には、ホテル・旅館の経営者向けの提案やセミナーの実施、飲食店の会計管理方法、長期インターンシップなど、連携・ご協力できることは色々あると思います。

以 上

“観光分野・長期インターンシップ”についてご相談がある方は、  
山梨中央銀行 営業統括部 法人推進室  
TEL: 055-224-1091 まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。